

ハンガリー人への読点指導の可能性

若井誠二(カーロリナーシュパール大学)

I. はじめに(動機)

カーロリ大学日本学科では、入試設題の1つとして 300 文字の日本語作文を課しており、そのため同学科内にある1年間の入試準備コース(通称0学年)でも作文指導を行っている。ただ、実際には表現や展開などの内容中心の指導で、これまで記号の使用には大きな注意を払ってこなかった。今後もこの指導方針に大きな変更はないが、現在0学年用の自習教材を作成中ということもあり、記号使用についてもなんらかの記述をしようと考えている。記号の中でも特に読点についてはかなりのスペースが必要と思われるため、今回ハンガリー語と日本語の読点使用について対照し、ハンガリー人にとってわかりやすい記述を目指すことにした。

II. 洪日読点使用の対照

ハンガリー語の読点使用基準はかなり明確である。(参考資料1)具体的には以下の通りとなる。

- (1) 重文や複文において、前節と後節、そして主節と従属節を分ける手段として
(接続詞や関係詞、限定詞を置く場合には、必ずその前で読点を打つ。)

Ma meleg volt, de holnap már hideg lesz.

キョウ アタカイ 過去、デモ アス モウ サイ 未来

Nem tudtam, hogy jösz.

否定 ワタシハツテイタ、節 アタカガク

- (2) 句や節が挿入句、節であることを示す手段として
(挿入句、節の前後の前後に打つ)

Ezt az élményt, amíg élek, nem fogom elfejteni.

コノ ケイケンヲ、アイダ ワタシガ イテイ、否定 ワタシ意志未来 ワスレル

- (3) 比較の mint の前に

több, mint gondoltam.

モットオオイ、ヨリ ワタシハカンガエタ

- (4) 語句を並べる手段として

Kenyeret, vaját, sajtot vásároltam.

パンヲ、バターヲ、チーズヲ、ワタシカイマシタ

- (5) 複数の限定修飾語が個々に名詞を修飾する手段として、
(語句を隔てて修飾することを示す手段として)

nagy, komoly feladat

オキイ、ジュウヨウナ カダイ

- (6) 同格の言葉の間に

Ferenc, a legjobb barátom tegnap vidékre utazott.

人名、モットモイ ワタシトモダチ キノウ イカハ カハタビダツタ

- (7) 文頭の語が間投詞、感嘆詞であることを示す手段として

Ó, de jó itt!

感嘆、強調 オイ ココ!

(8) 文の要素が、呼びかけの語句であることを示す手段として
 Tedd el, fiam! / Fiam, tedd el!
 アナハシマエ、オマエ!

日本語の読点は無意識に打たれる傾向にあるが、全くの無意識ではなく、ある一定の了解枠の中で打たれている。小泉(1989)は各専門家の意見を比較検討し、以下のような了解枠を導き出した。

A読点の使用を必要とするもの

(a)読み誤りを避けるため

- 誤読を防ぐため(ここで、はきものをぬいでください。)
- 語句を並べる場合(静かな、明るい朝でした。)
- 語句を隔てて修飾する場合(先生、この、芋虫に似た虫は何といますか。)

(b)読みにくさを避けるため

- 文を中止するところ(花は咲き、鳥は歌う。)
- 文の成分を倒置した場合(なんだ、このざまは。)

(c)文頭にくる語句の性格を明らかにするため

- 文の始めに用いる副詞、接続詞のあと。(すると、電燈がぱっと消えた。)
- 感動詞、呼びかけ、返事などの語のあと。(おお、寒い。)

B読点の使用が望ましいもの

- 限定・条件などを表わす文や語句のあと。(風が強いので、ぼくは窓をしめた。)

C読点の使用が自由なもの(読点があってもなくてもよい)

- 叙述の主題となる語のあと。(私の家は、駅から遠い町はずれにある。)
- 会話文、引用文などを「」で囲んで「と」で受ける場合(「野球をしよう。」と、兄は言った。)
- 息の切れ目や読みの間のところ(ジャン、ケン、ポン。)

両者を①ハンガリー語からみた日本語読点使用 ②ハンガリー語にない日本語読点使用 という2点から対照させた結果、以下のような使用分類が導き出された。

日本語の読点使用分類 (ハンガリー語と日本語の対照から)

A読点の使用を必要とするもの、またはその使用が望ましいもの。

- (a)読み誤りを避けるため(ここで、はきものをぬいでください。)
- (b)語句を並べる場合(静かな、明るい朝でした。)
- (c)語句を隔てて修飾する場合(先生、この、芋虫に似た虫は何といますか。)
- (d)節と節をつなげる部分。
 1. 接続助詞の後(花は咲いて、鳥は歌う。)
 2. 文頭接続詞の後(花は咲く。そして、鳥は歌う。)
 3. 連用止めの後(花は咲き、鳥は歌う。)
 4. 時や場所、条件などの限定を表わす語句の後(子供のとき、何になりたかったですか。)
 5. 文頭副詞の後(ボタンを押した。すると、電燈がぱっと消えた。)
- (e)挿入句の前後、あるいは前(あの会社は、ここだけの話だが、倒産寸前らしい。)
- (f)同格の語を並べる場合(花子、つまりあなたの元同僚がそこにいたってわけね。)
- (g)文の成分を倒置した場合(なんだ、このざまは。)
- (h)感動詞、呼びかけ、返事などの語のあと。(おお、寒い。)

B読点の使用が自由なもの(読点があってもなくてもよい)

- (i)叙述の主題となる語のあと。(私の家は(、)駅から遠い町はずれにある。)(j)会話文、引用文などを「」で囲み「と」で受ける場合(「野球をしよう。」と(、)兄は言った。)
- (k)息の切れ目や読みの間のところ(ジャン(、)ケン(、)ポン。)

Ⅲ. つぎに(新たなる動機)

カーロリ大学では、入試のレベル設定をオープンにすることを目指している。そこで、作文課題とのからみで、上で得た読点使用分類も(何らかの形で)表に出す必要があると考えた。ただ、受験者の使用している教科書の読点と上記の読点使用分類にずれがあると学習者が混乱する可能性がある。そこで、1999年に行われたカーロリ大の調査その他で得た、「ハンガリーで使用されている初級教科書」をその対象とし、読点使用について調査することにした。

対象となる教科書

『日本語初歩』(国際交流基金)

全課分ち書き。漢字は既習漢字とその課の新出漢字のみ

『ハンガリー人のための日本語』(協力隊編集)

全課分ち書き。漢字は既習新出区別なく提示し、ふりがながつけてある。

『みんなの日本語』(スリーエーネットワーク)

全課分ち書き。漢字は既習新出区別なく提示し、ふりがなをつけてある。

『Japanese for everyone』(学習研究社)

6課まで分ち書き。漢字は既習漢字とその課の新出漢字のみ

『日本語』(Tankonyvkiado)

5課まで分ち書き。漢字は漢字は既習漢字とその課の新出漢字のみ。

(尚、『ハンガリー人のための日本語』と『みんなの日本語』はⅠ、Ⅱがあるが、手元にⅠしかなかったためⅡは調査対象から外した。また、『Japanese for everyone』と『日本語』は分ち書き文のみを対象とした。)

調査は、各教科書での読点を上記分類枠に振り分けることをその方法とし、①教材での読点使用の中に上記分類では説明できないものが含まれるのではないかと。②上記「B」(読点使用が自由なもの)に関し教材が何らかの使用基準を示しているのではないかと。という点にも注目した。

Ⅳ. 調査結果

①上記分類では説明できない読点使用。

『みんなの日本語』や『ハンガリー人のための日本語』では、「このケーキ、おいしいですよ。」などの助詞が省略されている部分に読点が置かれている例が見られた。教科書に見られた例はいずれも書き言葉的ではないが、「ハンガリーの東北地方、デブレツェンにある…」などのような使用法も考えられる。

②読点使用が自由なものに対する使用基準

『「と』の後には、いずれの教科書も読点を打たなかった。一方、主題の「は」については、『みんなの日本語』『日本語』ではまったく読点が打たれず、逆に『Japanese for everyone』では、すべての「は」の後に読点が打たれていた。『ハンガリー人のための日本語』と『初歩』では、打たれているものと打たれていないものがあったが、その基準については、見つけ出すことができなかった。

例()内数字はページ数(以下同様)

日本人は 朝 おきた時には 何と言って、あいさつを しますか。
それでは、夜 ねる時には、何といって あいさつを しますか。(初歩 119)
雪子さんはどんな物をほしがっていますか。
あの人は、ほしい物は何もないそうです。(初歩 178)
わたしは、ハンガリーから 来ました。(ハンガリー54)
わたしたちは ブラチスラバへ 行きました。(ハンガリー62)

③学習者側に混乱が起こる可能性

『みんなの日本語』は、読点使用も基本的に上記分類に沿っており、また、読点使用のゆれが極めて小さい。一方、『ハンガリー一人のための日本語』『日本語初歩』『日本語』の読点使用基準自体は大筋上記分類に沿っているが、読点使用にゆれがあるため、学習者が戸惑う可能性がある。(特に『初歩』の後半部分にその傾向が強い。ただし、これは日本語読点使用にはゆれがあることを意識的に示した親心なのかもしれない。)尚、『Japanese for everyone』は、テーマの「は」だけではなく、主語の「が」、場所の「に」、並列の「と」、手段の「で」など、上記分類以外の助詞の後ろにも読点が置かれており、更に限定を表わす語句も他の教科書とは違い、「まで」「なかで」「まえの」「まえで」「まえは」など場所を表わす場合でも、ほとんど例外なく読点が置かれている。これらは上記分類とかなり異なっており、学習者は混乱を引き起こす可能性がある。

(例: 日本語初歩 32 課)

条件表現を学ぶ 32 課では、文型提示や練習問題では「ば」「たら」「なら」「ても」などの後に必ず読点が打たれている。しかし本文だけを見ると(読点が打たれない「ば/たら/なら/てもいいです。」を除いて)6つある「ば」で読点がうたれているのは1つだけで(1/6)、他の語句の後も「たら」(0/2)、「なら」(1/3)、「ても」(0/2)と読点が打たれていないものの方が多い。

(Japanese for everyone の読点使用例)

ひこうきのなかで、よくねました。(58)
すぐ、チェックインをしたほうが、いいんじゃないですか。(58)
それから、トロをふたつと、えびをひとつ、おねがいます。(70)

V. まとめ

上記分類に①で得た新情報を付け加え、③で得た情報をなんらかの形で付け加えることで、この分類の公開が可能になると思う。また、学習者に対しては、①まず、上記分類を提示した上で、②学習者がとまどいを覚えそうな教科書の読点使用に関しては、それを指摘し確認をとるなどの作業が有効だと考える。更に、教科書間の読点使用にもずれが見られるため(特に「今日」「今」「朝」など限定を表わす語句への読点使用)、教員側が上記の教科書を見比べておくことも関節的に読点指導に有効に働くのではと感じる。(もちろん自身の読点使用を振りかえることも重要であることは言うまでもない。)

VI. 今後の課題

『Japanese for everyone』での読点使用は、小泉の提示する日本語読点一般了解枠とも大きくずれがあるが、そこに読点が置けないわけではない。読点使用については一応の分類を作成したが、更なる検討が必要となるだろう。

また、今回の調査を通じて、返事の「はい」「いいえ」の後に読点を打つべきか、句点を打つべきか迷う例がいくつか見られた。時間があれば、この点についても調べてみたい。

マリアさんはもう日本の生活に慣れましたか。 ええ。毎日とても楽しいです。(みんな 65)
外国人登録証を持ってきてください。 はい。どうもありがとうございました。(同 191)
ぜんぶまりこさんの? いいえ、父のもすこしあります。(ハンガリー人 22)
まりこさんですね。 はい、はじめまして。(同 33)
これでいいですか。 はい、これでけっこうです。(初歩 110)
これでいいですか。 はい。よろしゅうございます。(同 284) (Japanese 96)
だいぶ、まつででしょうか。 ええ、まつでしようから、はやく、うちを出たほうがいいですね。

参考文献:

岩田和男(1991)「句読点(とくに読点)について」『日本語教育研究』25号 言語文化研究所
 大類雅敏(1989)「新聞・雑誌の句読法」『日本語学』6月号 明治書院
 大類雅敏(1989b)「横書きの句読法」『日本語学』6月号 明治書院
 片村恒雄(1989)「国語教科書の句読法—文学教材の場合—」『日本語学』6月号 明治書院
 小泉保(1989)「句読法概説」『日本語学』6月号 明治書院
 樋口元巳(1989)「句読点の歴史—『源氏物語』読曲の句切れについて—」『日本語学』6月号 明治書院
 Kocalovszky Miklós 1980, "Nyelvművelő Kézikönyv", Akadémiai Kiadó
 Kiss Sándorné Székely Ilona 1998, "Japán nyelvtani összefoglaló", Tárogató kiadó
 Jamadzi Maszanori. 1988, "Japán Nyelvkönyv", Tankönyvkiadó
 Murasaki Kyoko 1997, "Japán nyelv alapfokon nyelvtani magyarázatok", TYPO-REP Nyomda,

参考資料1.

①「新聞記事」(2001年7月9日付け『Népszabadság (人民の自由)』一面トップの「Kormányválság Horvátországban (クロアチアでの政府崩壊)」、②「薬の注意書き」(Augmentin という抗生物質についての注意書き)、③「小説」(『Egri csillagok (エゲルの星)』という小説)、④「私信」(筆者はハンガリーの地方学習者、および教員に向けて情報誌を発行しているが、これに関し、あるハンガリー人日本語教師より筆者あてに送られてきた手紙)とタイプの違う文章における最初の20個の読点を調べ(注意書きは情報量が少なく、読点が11しかなかった)、これらの読点が果たして上記(1)~(8)に従って使用されているのか、打たれるはずの場所に読点が打たれていない例があるか、という2点について調べてみた。その結果、前者については、すべての読点が(1)~(8)の規則に従った形で現れ、後者に関してはそのような例が1つも見つからなかった。これを見ても、確かにハンガリーの読点使用は明確に規則化されていることがわかる。

各タイプの文章における読点。尚、番号は上記(1)~(8)までの規則番号

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
新聞	1	1	1	5	1	6	4	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
薬	1	5	4	4	4	4	4	4	1	5	6									
小説	1	1	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	3	1	3	1	8	6	1	1
私信	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5	1	4	1	5

参考資料2: 各教科書の読点の分類 (分類基準は本論IIによる)

	みん	ハン	初歩	JAPA	日本		みん	ハン	初歩	JAPA	日本
(a)				○		(e)		○			
(d)1	○	○	○	○	○	(g)				○	
(d)2	○	○	○	○	○	(h)	○	○	○	○	○
(d)3			○			(i)		○	○	○	
(d)4	○	○	○	○	○	他	助詞	助詞	各種		
(d)5		○	○	○	○		省略	省略	助詞		